

足尾・小中川・弓の手沢

T野

メンバー：T野・N山・I崎・S口

2024年6月8日～9日



自動車が1台停まっいて嫌な予感がする。

■写真上 入渓最初にある3m小滝。

■写真下 左岸を巻いた7m滝。

入渓点から早くも奥に滝が見える。左岸から容易に沢床に降りて、すぐの堰堤は左岸から超えると早速3m位の小滝、右側から難なく越すと、7m位の深い釜を持った立派な滝。ここは泳いで取付いても悪そうなので、無理せず左岸の踏み跡を使って高巻く。あまりメジャーな沢ではないが踏み跡は妙にしっかりしている。その後も滝が続くが適度な難易度で気持ちよく

今年初の泊り沢である。とはいっても、この沢は泊まる人はほとんどなく、基本日帰りの沢である。ただ、記録を読むと、「標高1200m以上は至る所にテンバ適地がある。」という表記があり、ゆっくりと焚き火を楽しむのに良さそうだと思い、我々は1泊で計画した。ということで、今回は時間的な余裕はたっぷり！！まさに、今年初の泊り沢にふさわしい企画である。

前夜22:00に平井駅を出発。わたらせ渓谷鉄道沿いにある「道の駅くろほねやまびこ」で仮眠。最近、長距離ドライブに慣れているので、今回の片道165kmは、ほんのご近所さんだ。

6/8、朝、6:30集合をなぜか7:30と勘違いして寝ていたからI崎さんが合流してきて起こされた。まあ、時間はたっぷりあるので急ぐことはない。この道の駅は隣にファミマがあって買い出しもできて便利だ。

弓の手沢の入渓点まではここから車で約30分。入渓点手前200m付近に4~5台車が置けるスペースがあり、ここに車をデポして8:00出発。入渓点に軽



登れ、1カ所ロープを出した滝があったが概ね快適に登っていく。すると、前方に懸念していた釣り師が登場！！「俺も貴重な休みに来ているので大滝まで巻いて行ってくれ。」と言う。我々も楽しいのは大滝までなので、それは受け入れられない。逆に大滝の上なら巻くのもやぶさかではないのだが・・・。

結局、釣りを楽しみたいという彼の言い分も少しは分かるので、時間に余裕のある我々は、ここで1時間半ほど待機してから登ることにする。そうか！！やけに踏み跡がはっきりしていると思ったが、これは釣り師の踏み跡だったのか。つまり、この沢は釣り師の世界では意外にメジャーな沢なのかもしれない。そういえば、いくつかある記録の中にも、釣り師とのやり取りを記述したのがあったような気がする。ということで、約1時間半、暇なので思いがけず焚き火タイムとして時間をつぶす。酒も飲めず、食事も作らない焚き火は案外退屈・・・。



- 写真上 楽しく登れる滝。
- 写真中 楽しくハツれる淵。
- 写真下 ここも快適に直登。



さて、もういいだろう！！と焚き火を始末して再出発。すぐに二俣、溪は規模こそ小さいが連瀑やゴルジュが連続して楽しい！！特にゴルジュ帯は岩盤が発達していてなかなかの渓谷美を見せてくれ、ほとんど中を通過できるのも良い。ゴルジュの中では、意外に進んでいない釣り師にあっけなく追いついてしまう。まあ、我々も筋を通したので、ここからは問答無用で先を行かせてもらう。



ゴルジュを抜けると、溪は穏やかになり、炭焼き窯の跡などもあり、以前はこの辺りに生活の営みがあったことを示している。2年くらい前に遡行した栗原川もこんな感じの場所があったが、考えてみれば同じ山域である。足尾という地は山中にも至る所にこのような生活の営みの跡がある。ビール瓶のガラスの破片などが落ちていて、そこに「ルービンリキ」と刻印されていたりする。いったいいつの頃のビール瓶なのだろうか？ ウーン実に興味深い！！

穏やかになった溪に「もう終わりか



な？」と思う頃、突然 10mクラスの大滝が出現！！

■写真上 思いがけず時間待ちの焚き火。

■写真中・下 小滝とゴルジュが連続して現れて楽しい！！

この溪の主である。これがまた良い滝で、立派で難しそうに見えるが実はホールド・スタンスうじゃうじゃ！！ストレスなく快適に直登できる滝だ。ゴンちゃんに念のためにロープを引いて登ってもらうが、淀みなくスルスルに登って行き、他のメンバーも順次後続するが若干シャワーを浴びながら快適に直登できた。



■写真 楽しい溪相が続く。登れる滝とへツれる淵が連続する！！



■写真 溪が開けると、炭焼き窯などの生活の跡が・・・。



この滝を越えると溪も
いっきに開けてどこでも
歩ける。もう、どこで泊
まっても良い。溪という
より小川という風情で、
傍らにはあちこちにテン
バ適地がある。どこで泊
まるか悩みながら進むが、
結局、1230m付近の適地
にタープを張ることにし
た。

皆、沢慣れしたメンバ
ーなのでやることはわか
っていて、薪を拾う人、
酒を冷やす人、タープを
張る人・・・段取りが良
い。さあ、時間はまだ早

いが準備は整った！！今年初の
焚き火宴会の始まりだ！！



■写真上 この溪の主、10m滝
を登る！！

■写真中 快適なテンバ！！

ここで思いもよらぬ大事件が
勃発！！最初は、そのことにだ
れも全く気づかずに普通に飲ん
でいた。が・・・なんと！！

（S田石風に）I崎さんが飲ん
でいる缶をよく見ると「ZER
O」とか書いてあるビー
ル・・・否、ノンアルコールビ

ールだ！！

我々 「I崎さん、何でノンアルなんて飲んでるの？」

I崎 「いや、これ結構旨いんだよ。」

我々 「I崎さん、今日はどうしたの？ 日本酒はいつ出てくるの？」

I崎さん 「いや、実は今日は持ってきてないんだ。」

我々 「はあー????」 「じゃー、あと何持ってきてるの？」

I崎さん 「ノンアルのチョウヤのウメッシュ、これも意外と旨いんだ。」

我々 「ねえ、念のために確認だけど、ホントI崎さんだよな？」

I崎さん 「そうだけどなにか・・・？」

これは信じがたいことだが紛れもない事実である。よくよく話を聞くと、7月に手術する膝裏の良性腫瘍除去にあたり、血圧で引っ掛かったようで暫く酒は飲めないらしい。イヤイヤ、それにしても見事に酒を断っているのがI崎さんらしくない。

酒を飲まないI崎さんは品行方正であった。品行方正のI崎さんも悪くはないが何か物足りない。まるでガソリンのっていないフォレスターのような。お陰で代わりにベロベロになっ

たのは僕だった。というか、僕はいつも通りなのだが、いつもと違うI崎さんと比べて余計目立ってしまったというのがホントのところだ。グッチの手料理や、メンバーが持参したツマミ、沢の水で冷えたビールや日本酒、それに久しぶりの焚き火の爆ぜる音、「沢の季節がやってきたんだなあー」と実感しながらへ口へ口と夢の中へ・・・。

■コースタイム

車デポ地(8:00)～(8:05)7mの巻いた滝～二俣手前で1時間半ほど時間調整～(10:14)
ゴルジュ帯突破(11:20)～(11:58)炭焼き窯跡～(12:08)10m大滝(12:30)～(12:50)
1230m付近テンバ



6/9

品行方正なI崎さんは朝も継続していた。まるでN野のように、最初に起きて焚き火を熾してくれている。時間まで僕は朝寝を楽しむ。そうしているうちにN山も起き出したようだ。グッチはまだ夢の中だ。いつものI崎さんなら朝はグッチレベルなのだが・・・今日は違う。そう、N野レベルに進化している。

朝食の乾燥ホタテで出汁を取った塩ラーメンが実に旨い。いつも朝食をほとんど口にしないI崎さんは・・・？ 旨そうにしっかり喰っているではないか・・・！！

うーん、何かが違う・・・。無事手術を終えたら、ぜひ、足して2で割ったくらいI崎さんに戻ってほしいと切に思っている。冗談はさておき、1日も早い回復と復活を願ってます！！

■写真上 2日目最初の小滝。

■写真下 気持ちの良い森歩き。



さて、テンバを7:00出発。今日はただ詰めるだけである。小川がサラサラ流れる美しい森をのんびり歩いていく。水に入る

ことはほとんどない。これがつまらないという人は、さっさと右岸の尾根に上がってこの尾根を下れば近道である。日帰りでこの沢の美味しいところ取りをしたい人にはこのルートが薦めだ。

我々は1泊で来ているのでそれでは物足りず、さらに上を目指す。何も無いがキレイな森歩きは退屈ではない。時折鹿のカン高い鳴き声が間近に聞こえる。決して歓迎しているのではなく、警戒しているのだろうが姿が見えないか必死に鳴き声の方に目を凝らす。



1480m付近まで登り、この先、沢を詰めるより尾根を登った方が等高線の間隔が緩く、楽ではないかと思い、相談の結果ここで脱溪、尾根に取付くことにする。藪っぽかったら戻って沢を詰めるつもりだったが、藪は薄く、鹿道がしっかりと踏まれていて登山道並みに快適に詰めることができ大正解。約1時間で標高差270mを登り稜線へ。

この付近はアカヤシオやシロヤシオの木が群落になっていて、ところどころに気持ちの良い笹の草原が広がっていて、実に気分の良い稜線だ。登山道がない尾根なので自分達だけの世界に浸れるのも良い。さらに、迷いやすい場所が数カ所あり、そのルーファイも楽しみの一つで、ただ歩いて降りるだけの登山道よりもずっと楽しめる。ツツジが咲き誇る5月中旬頃にぜひ再訪したいルートだ。その時は釣り師とバッティングしないように早朝発日帰りか、ゆっくり入山して1泊するか・・・どちらでも楽しいと思う。最後は、ルーファイを楽しみながら、急けどフカフカで膝に優しい標高差約850mの尾根を、2時間ちょっとでのんびり下って11:40下山。

■写真 詰め上げた尾根は笹の草原やツツジの群落があり気持ちの良い尾根だ！！

食事は、わたらせ渓谷鉄道沿いの水沼駅手前の蕎麦屋（みどり屋）、非常にリーズナブルなうえにボリューム満点、最近、ラーメン1杯¥1000も珍しくないが、豚天丼+冷たい山菜蕎麦（小）で¥930！！豚天丼単品なら¥640と超リーズナブルだ。1時間近く待たされたが味もまあまあ美味しかった。水沼駅の温泉は休業中で、近場に温泉はなくI崎さんとは道の駅でお別れ、1時間後には自宅で風呂に入れるのだからまあいいか！！我々は桐生市内の温泉施設でゆっくり汗を流して帰京した。

今年初の泊り沢は良い沢旅だった。最後にメンバーの皆さんに感謝！！また、ぜひ遊びましょう！！

■コースタイム

テンバ（7:05）～（8:12）1480m付近脱溪点（8:18）～（9:17）1750m付近稜線（9:35）～（11:42）車デポ地